



2022年8月23日

報道関係者各位

慶應義塾

慶應義塾大学アート・センター主催の展覧会 「アート・アーカイヴ資料展 XXIII 槇文彦と慶應義塾 II : 建築のあいだをデザインする」展が開催 (2022/10/3-12/16)

慶應義塾やハーバードに学んだ槇文彦(1928-)は、独立以来、世界的に活躍しているモダニズム建築家です。彼の建築は、近代的な造形だけでなく、建物を取り巻く環境を深く理解した上で設計する点を特徴としています。

本展では槇文彦による慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス(SFC)に焦点を当てます。他のキャンパスとは異なり、SFCではキャンパス建設当初から槇が一貫して関わり、建築物やその配置などランドデザインを手がけました。ここで槇はかねてより提唱していた「群造形」を、より大きな規模で実現する機会を得たのです。個別の建物とそれをつなぐ関係性を重視した「群造形」を手掛かりに、槇がSFCという場で何を目指したのかを考えます。

1. 趣旨

槇文彦は慶應義塾や東京大学で学んだのちにハーバードに在籍し、1965年に槇総合計画事務所を設立して独立しました。彼はモダニズム建築家として、常にアクチュアルな課題に向き合いつつ、単にそれを解決するだけではよしとせず、建築周囲の状況に応じて柔軟に対応しながら社会に適合する建築を求めています。つまり彼の建築哲学は、建築そのものだけでなく建築物を取り巻く周囲の環境への深い理解に立脚し、都市と建築との関係、また現状だけでなく歴史的文脈における正当性といった「倫理観」をも含めた透徹した視線を特徴としています。それでいて決して環境に流されている訳ではなく、自身が課題(槇自身の言葉でいうところの「ロマン」)を設定することにより、どの建築物も槇建築としての同一性を有していることも忘れてはなりません。

第1回展では三田にある建築物を中心に、槇がかねてより理論化していた「奥の思想」をキーワードとして、三田キャンパスにおいて彼の建築物がどのような環境を創出しようとしたのかを問いました。第2回となる今回展では、槇がほぼ全体を手がけた慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス(SFC)を取り上げます。

すでに多くの歴史的建築に囲まれた中に建物を設計した三田キャンパスとは異なり、SFCは土地の造成から始めるゼロからの出発でした。それゆえ、建築物の設計に際して環境の創出を何よりも大切にす槇に、すでにメタボリズムやハーバード時代から提唱し、立正大学でもかつて試みていた「群造形」をより洗練し、より巨大な規模で実現する機会が訪れたのです。

群造形は共通の因子を有する複数の建築物が連関することで、それがフレームとなり全体の環境を創り出すもので、個別の建物とそれをつなぐ関係性を重視した思想です。本展覧会ではこの点に注目し、大学というコミュニティのキャンパスデザインにおいて、群造形を用いることで槇が何を目指したのかを考えます。

槇文彦(まき・ふみひこ、1928-)

1928年、東京に生まれる。東京大学工学部建築学科卒業、ハーバード大学大学院修士課程修了。ワシントン大学、ハーバード大学准教授、東京大学教授を歴任。1965年に槇総合計画事務所を設立。主な作品はヒルサイドテラス、スパイラル、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス、4WTCなど。プリツカー賞、日本芸術大賞、建築学会大賞、文化功労者など受賞多数。著書に『記憶の形象：都

市と建築の間で』筑摩書房、1992年；『残像のモダニズム：「共感のヒューマニズム」を目指して』岩波書店、2017年；『アーバニズムのいま』鹿島出版会、2020年ほか。

2. 開催概要

会場：慶應義塾大学アート・スペース
会期：2022年10月3日（月）～12月16日（金）
開館時間：月～金、11:00-18:00（土日祝日休館）
入場料無料

主催：慶應義塾大学アート・センター

展覧会 Web ページ：<http://www.art-c.keio.ac.jp/news-events/event-archive/artarchive23/>

3. 出品作品（予定）

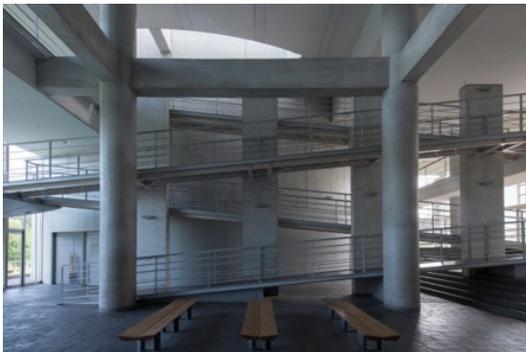
SFC 建築図面、建築写真、3D 図面ほか



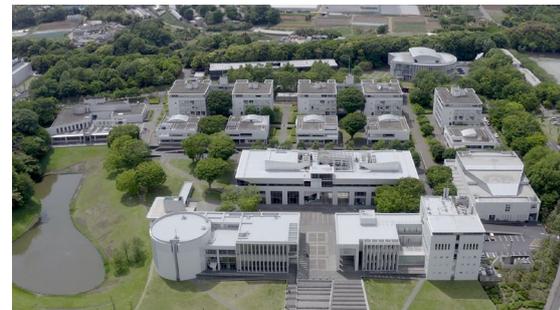
a



b



c



d

a：M 館

b, c：Ω 館

d：キャンパス全景

（全て SFC、a, b, c: ©慶應義塾大学アート・センター／撮影：新良太、

d: 武田圭史研究室提供）

※ご取材の際には、事前に下記までご一報くださいますようお願い申し上げます。

※本リリースは文部科学記者会、各社社会部、文化部等に送信させていただいております。

本発表資料のお問い合わせ先

慶應義塾広報室（豊田）

TEL：03-5427-1541 FAX：03-5441-7640

Email：m-pr@adst.keio.ac.jp <https://www.keio.ac.jp/>